

令和7年度 秋田県立矢島高等学校  
第3回学校運営協議会 議事録

【日時・場所】

令和8年2月18日（水）14：20～15：50

秋田県立矢島高等学校 大会議室

【出席者】

1 学校運営協議会委員

大井 永吉 【天寿酒造株式会社代表取締役社長】  
庄 司 嘉政 【矢島高等学校元PTA会長】  
茂木 雅人 【本海流坂之下番楽講中】  
佐藤 俊弘 【矢島高等学校拓道同窓会会長】  
三浦 秀人 【矢島まちづくり協議会会長】  
滝野 由紀夫 【元由利本荘市役所矢島総合支所長】  
赤川 忍 【矢島保育園職員】  
佐々木 光浩 【矢島小学校校長】  
東海林 俊介 【矢島中学校校長】  
佐藤 恵介 【矢島高等学校PTA会長】  
藤原 淳 【矢島高等学校校長】

2 矢島高等学校〔事務局〕

小松 隆行 【教頭】  
内田 隆仁 【事務長】  
高橋 晃二 【教諭（総務部主任・WG1委員長）】  
猪股 憲一 【教諭（特別活動部主任・WG2委員長）】  
畠山 圭亮 【教諭（教務部主任・WG3委員長）】  
黒木 育子 【教諭（進路指導主事）】  
村井 良裕 【教諭（1年部主任・商業科主任・YBP主担当）】  
黒木 仁美 【養護教諭（保健主事）】  
佐藤 朋子 【教諭（2年部主任）】  
佐々木 みか子 【臨時講師（3年部主任）】

※ 学校運営協議会の前に各ワーキング・グループでの協議を実施

## 【議事概要】

### 1 学校運営協議会会長あいさつ

ご多用のところご参加いただきまして、誠にありがとうございます。我々も少ない機会の中で、このように矢島高校の運営に関わっているということで、先生方が良かったなと思える部分をつくりたいと常々思っております。地元にいるからこそ思いつくこと、若いから又は年を取っているから思いつくこと、地域で行動する中で役に立つことをアドバイスして、それが学校にマッチするのがベストだろうと思います。来年は100周年ですので、便利使いもしていただければありがたいと考えております。また、今日は学校評価ということですが、いつも我々が評価することについては、戸惑いがあります。役に立つのであれば、しっかりお答えしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

### 2 校長あいさつ

(校長)

本日は、第3回学校運営協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。委員の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し多大なるご支援、ご協力を賜っておりますこと、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

本日は、今年度の学校評価や各分掌の取組、そして各ワーキング・グループの成果と課題について協議を行っていただきます。よろしく願いいたします。

さて、詳細な説明に先立ちまして、先月末に教頭が先進校視察を行い、「小中高連携」や「地域みらい留学」の取り組みについて、本校の今後を考える上で大変貴重な知見を得ることができました。まずは、その報告を教頭より行ってもらいます。

(教頭)

1月29日に先進校視察として、東北地方にある県立高校を訪問してまいりました。当該校は、全校生徒100名弱の全日制普通科の高校であり、「地域みらい留学」事業に参画して、ここ3年連続して県外から留学生を受け入れている実績があります。地域社会の発展に寄与する人材を育成することをスクール・ミッションに掲げて、小中高連携および地域連携を強力に推進している点が特徴です。

当該校は、所在する町で唯一の高校として手厚い支援を受けており、我々の環境とは全く違いますが、町の教育委員会が当該校専属のコーディネーターを配置しているなど、人的な支援もしているところが印象的でした。このコーディネーターが、「地域みらい留学」において、生徒募集のPRの企画や保護者

への説明・相談から、入学した後の生活のサポートまでを担っており、事業の核となっています。また、学校専属ですので、学校と行政、学校と地域、学校と地元企業等のつなぎ役となって、生徒の探究学習のサポートも手広く行っていました。また、学校運営協議会に、このコーディネーターや留学生の寮母さん（ハウスマスターと呼ばれています）が、委員に入っているということも特徴的でした。このハウスマスターが、下宿での留学生の生活をサポートするだけではなく、ボランティアで留学生を土日に遠出の買い物に連れて行くなど、業務内容にないこともサポートしているとのことでした。また、自治体や地域の多くの方々が、様々な形で県外からの留学生を温かく支えていることも印象的でした。たとえば、寮の食材にと、地域の方が野菜を持ってきてくれるなど、とても温かい支援をしている感じがいたしました。いろいろ話を聞かせていただいて、円滑な運営に成功していると感じたのですが、当該校の校長先生からは、「話を聞くと、うまくいっているとお感じになるかもしれませんが、実際はうまくいかないことも多く、その都度、行政や地域の方々の協力を得て、相談をしながら改善を図っている」という言葉もありました。

（校長）

今年度、由利本荘市移住支援課と連携し、地域みらい留学に挑戦いたしました。東京での説明会を経て、4名の中学生がオープンスクールに参加してくれました。正直に申し上げまして、当初は「農業高校や水産高校などと違い、専門的な科目を学べない普通高校の小規模校に、県外から生徒が来てくれるだろうか」という不安もありました。しかし、説明会では「矢島町の魅力」、特に由利高原鉄道での活動に強い関心を示す生徒が多く、それがきっかけで本校生徒と交流し、オープンスクールへの興味に繋がったことは大きな発見でした。これが生徒募集、ひいては学校づくりのヒントになると確信しております。

高校として矢島の魅力を積極的に発信していくことはもちろんですが、今後は「高校から地域に連携をお願いする」だけでなく、「地域の方から高校に声をかけていただける」ような関係性を築いていきたいと考えております。ありふれた言葉になりますが、私のイメージは「矢島まるごとキャンパス」です。少人数学級を強みとし、機動力を活かし、地域の方々を「先生」として、この町全体で主体的・対話的な学びを実践したい。100周年という節目に、生徒が地域の担い手として輝く姿を目指したいと考えています。

また、創立100周年記念式典では、ブランディングの専門家をお招きする予定です。この講演をぜひ地元の商工会の方々にもお聞きいただきたいと考えております。委員の皆様から、ぜひ地域の方々へお声がけをいただけないでしょうか。これこそが、コミュニティ・スクールの持つ大きな力だと考えており

ます。

また、来年度はワーキング・グループに高校生や大学生も巻き込みたいと考えています。若くて自由なアイデアに、地域のプロの知識と技術を掛け合わせることができれば、矢島はもっと元気になります。簡単なことではありませんが、発信し続け、挑戦しようとする姿を見せることこそが、本校の魅力になると信じています。ぜひ皆様方からお力添えいただき、学校と運営協議会が両輪となって、来年度の矢島高校、そして矢島地区の未来に繋げていきたいと思えます。限られた時間ではありますが、有意義な意見交換ができることを期待し、私のあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

### 3 協議（進行：大井会長）

#### （1）協議 1 学校評価について

##### ① 学校評価アンケート結果について

小松教頭が、資料に基づき、保護者及び職員を対象とした学校評価アンケートの結果や分析内容について、説明を行った。

（意見・質疑応答）

佐藤（俊）委員：3年生の保護者は、11人中5人しかアンケートに回答していない。評価も厳しいが、8割程度の保護者が回答していれば、評価はもっと高かったのではないか。アンケートのとり方を工夫する必要がある。

小松教頭：アンケートの回収率は課題であると考えている。今年度から、紙媒体とICTを併用したところ、締め切りが過ぎるまで、どちらで回答するか把握することができず、回収のタイミングがずれてしまった。来年度は、回収率を上げることができるよう工夫をしたい。回答の分母が少ないので、結果が極端に大きく振れている。気になる回答がある場合は、生徒や保護者を通じて具体的なことを把握したいが、無記名回答のため、類推して対応することもある。

##### ② 各分掌の取組について

各分掌主任が、資料に基づき、分掌の取組状況や自己評価等について、説明を行った。

(意見・質疑応答)

庄 司 委 員：いじめに関する勉強会を行っているか。

小 松 教 頭：生徒指導主事や教頭を対象にした県が主催の研修会がある。学校でも、いじめに関する研修会を年1回実施している。最新の情報の取得に加え、協議や演習を行い、実態に即して、先生方に考えてもらっている。

庄 司 委 員：いじめた側といじめられた側の感じ方の違いについて、何らかの取組を行っているか。

小 松 教 頭：研修は、加害者の人権や立ち直り支援にも配慮した内容になっている。

庄 司 委 員：いじめの調査に関する第三者機関を設置しているか。

小 松 教 頭：いじめの訴えがあった場合、まずは学校が調査を行う。被害者側の求めがあれば、県が設置する第三者機関による調査も可能である。

## (2) 協議2 次年度に向けて

### ① 各WGの今年度の成果と課題、次年度の取組等について

各ワーキング・グループの事務局担当者が、資料に基づき、今年度の成果と課題、次年度の取組等について、説明を行った。

(意見・質疑応答)

大 井 会 長：地元に残ろう、帰ろうと思える動機づけが重要である。農業の大規模化など地域の産業構造が変わる中で、今の若者が担い手となることができるよう、地方での生活の経済的メリットや将来性などを伝えることが必要ではないか。それを意識して指導してほしい。

### ② 次年度の学校運営協議会の運営・スケジュールについて

小松教頭が、資料に基づき、次年度の学校運営協議会の年間計画について、説明を行った。

## 4 校長あいさつ

藤原校長が、各委員の協力に対し謝辞を述べるとともに、来年度の委員の就任について、依頼をした。また、三戸高校の「クリエイティティ部」を参考にして、放課後に生徒が、農業や鉄道など様々な体験ができるような仕組みを構想していることを紹介した。

## 5 諸連絡

小松教頭が、「学校評価用紙」及び「学校運営協議会に係るアンケート」について、説明を行った。